

大津市で見られるツバメの仲間

1. ツバメ

学名：*Hirundo rustica*

田舎に住む

ツバメの意味

喉が赤い

風切羽の裏面も黒

尾羽が2又に分かれて長い

体長：17cm

翼開長：32cm

尾羽の長さ：7～10cm

体重：約20g

長い翼をもち、外側が細く長くなった尾羽が特徴。喉と額が赤く飛んでいても目立つ。

◎地鳴き ツピッ、チピッ

◎さえずり チキュチキュチキュチーキュジー 最後にジーとつける。

「土食って虫食って渋ーい」と聞きなす。

3月下旬に現れ、人家の軒下や、人通りの激しい人口構造物の壁に土でつくったお椀状（大きく口の開いた）の巣を作る。

エサは飛翔昆虫（トンボ、カゲロウ、ハエ、ユスリカ、ガなど）

地面に降りてくちばしで土をとり、

巣を作るので「土食み（つちばみ）」と呼ばれた。「チ」を略し、「ミ」が「メ」に変わりツバメになったとされている。ツバメの古名「ツバクラメ」も「土喰黒女（つちばみくろめ）」の略であるという説がある。乙鳥（おつちょう）玄鳥（げんちょう）ともいう。



2. コシアカツバメ

学名：*Hirundo daurica*

ドーリア地方のツバメの意味



体長：19 cm

翼開長：33 cm

尾羽の長さ：9～11 cm

体重：約23 g

ツバメよりひとまわり大きく、腰が赤茶色であるのが特徴。尾羽のツバメより長くスマートに見える。飛び方がツバメよりゆっくりで滑空することが多い。

◎地鳴き ジュピ、ヴィ ツバメより低い声

◎さえずり ジュリジュリチュルルルジュリジュリリリリリ・・・
ツバメに比べ弱く単調な声

ツバメより約1か月遅い4月中旬に現れ、橋げたの下や大きな建物の天井に土でつくったトックリ状の巣を作る。

小集団（コロニー）で営巣することが多く、同じ建物に数個の巣を発見できる。



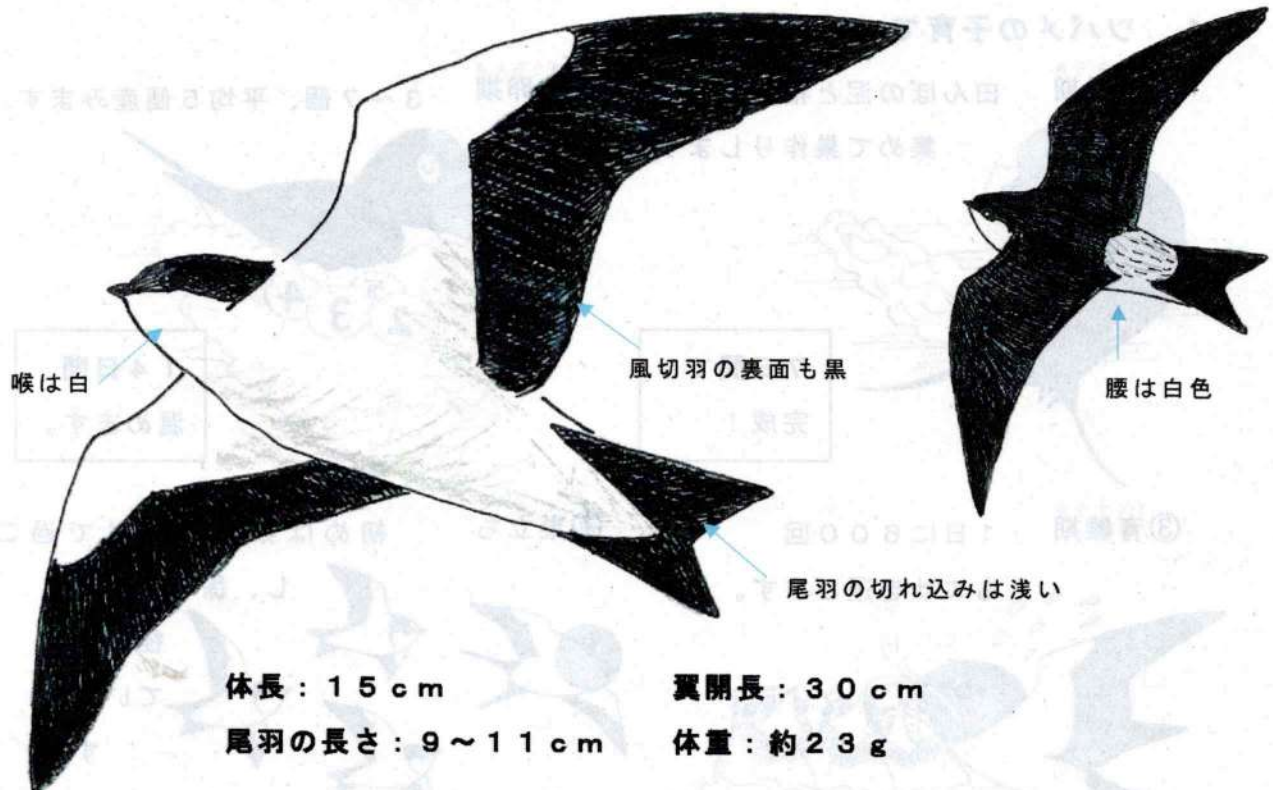
エサはツバメと同じ飛翔昆虫

西南日本に多いツバメで北日本に行くほど減少する。大津市では湖西線の高架下や駅構内でコロニーが見られる。近年周辺の住宅地などで1羽ずつで巣を作る観察例が増えている。

3. イワツバメ

学名：*Delichon dasypus*

都会に住むツバメの意味



ツバメよりひとまわり小さく、腰が白色であるのが特徴。尾羽は浅いV字型で広げると切れ込みがないように見える。高空を飛んでいることが多く、飛び方も素早い。

◎鳴き声 ジュリリリリ、チュビ、ヴィジュルルル
決まったさえずりはない。

巣には3月下旬に現れ、橋げたの下や大きな建物の天井に入口の狭い皿またはお椀状の巣を作る。

集団（コロニー）で営巣することが多く、大きな群れは50巣を超えることもある。



エサは他のツバメと同じ飛翔昆虫

高山や海岸部で見られる種であったが、1990年代から滋賀でも橋梁で繁殖するようになった。大津市では367号線沿いの橋にコロニーがよく発見される。

ツバメの生態

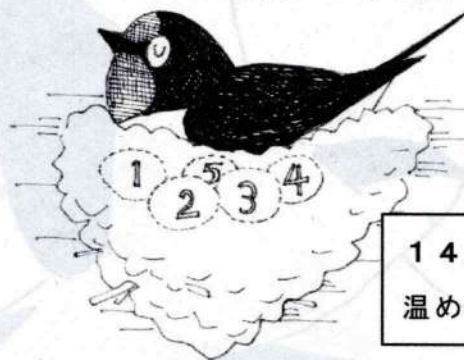
1. ツバメの子育て

①造巢期 田んぼの泥と枯草を
集めて巣作りします。



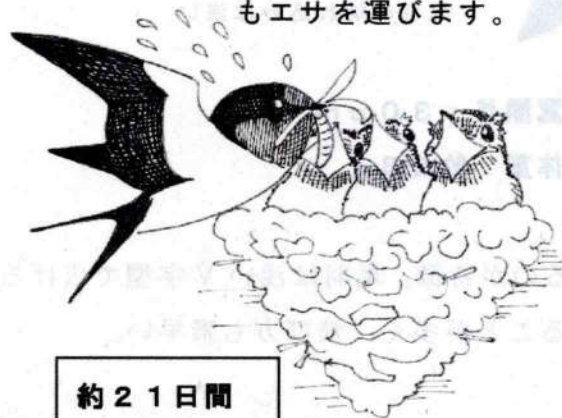
7日間で
完成!

②抱卵期 3～7個、平均5個産みます。



14日間
温めます。

③育雛期 1日に600回
もエサを運びます。



約21日間

④巣立ち 初めは巣のまわりで過ごし、徐々に行動半径を広げていきます。



2. ツバメの渡り

巣立った若鳥たちと、子育てを終えた親たちは餌の多い山や琵琶湖の周りに移動し、集団を大きくしていきます。夜は湖岸のヨシ原などに集まって寝ます。「集団ねぐら」と言い大きいものは1万羽以上も集まることがあります。

9月に入ると南下し始め、東南アジアの越冬地まで長い旅に出ます。一番遠い越冬地のジャワ島まで距離は6,000kmもあります。

